



<WICI ニュースリリース>

報道関係 各位

### 第3回「WICIジャパン統合報告表彰」の審査結果と表彰式

World Intellectual Capital/Assets Initiative(「世界知的資本・知的資産推進構想」以下WICI)の日本組織であるWICI ジャパン(事務局 :東京都新宿区、会長 長友英資)は、協力団体である「国際統合報告評議会(International Integrated Reporting Conference 以下IIRC、英国ロンドン市、CEO:Paul Druckman)」が展開する事業報告の簡潔・明瞭化により事業体のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを高め、事業体と社会の持続可能性を向上させようとする「統合報告活動(Integrated Reporting 以下<IR>)」に呼応し、その活動を日本において推進する方策として、「WICI ジャパン統合報告表彰制度」を2013年に創設し、「統合報告優秀企業賞」および「Web 統合開示特別賞」の表彰を開始させていただき、本年は3回目となりました。なお、本表彰制度の審査・選考は、いわゆる「勝手審査」として、下記の要領で実施しております。

本年の第3回審査・選考においても、企業報告の開示手段としてホームページによるWeb開示を基本にしつつ、その中核コンテンツとして統合報告書を作成することの一般化がさらに進展したことから、第2回に引き続き「Web 統合開示特別賞」は設けず、「WICIジャパン統合報告優秀企業賞」に一本化して行いました。

◎「WICI ジャパン統合報告優秀企業賞」・・・印刷物としての年次報告書作成の伝統を承継しつつ、Web 開示を活用し、投資家向け報告あるいはCSR向け報告さらには「ディスクロージャー誌」のいずれを基軸にするものであれ、財務・非財務のデータを結合し、和文版ないし英文版の年次報告書を提供することにより、企業の価値創造活動を世界規模で簡潔明瞭に示し、企業の将来が見通せるようにする統合報告を実践する企業として、次の4社を表彰いたします。(アイウエオ順)

アサヒグループホールディングス株式会社 伊藤忠商事株式会社  
オムロン株式会社 MS&AD インシュアランスグループ ホールディングス株式会社

※受賞企業 4 社の審査委員による評価ポイントは次のように要約できる。

#### **アサヒグループホールディングス株式会社(初受賞)**

経営理念と長期ビジョンを同社のステークホルダーと関連付け、かつ解決すべき社会的課題に結び付けて簡潔に説明し、<IR>フレームワークに参照しつつ価値創造プロセスと各事業部での事業展開のストーリーをわかりやすく表現した。

#### **伊藤忠商事株式会社(3 回連続)**

積み上げてきた統合報告のスタイルを基礎に、総合社における独自の競争優位性を鮮明に示し、それを支える事業投資に対する考え方や新旧中期経営計画の連関を簡明に説明するほか、TSR などを入れた株主価値のページを新設した。

#### **オムロン株式会社(3 回連続)**

事業別を中心にビジネスモデルを上手く説明するとともに、事業選択と事業効率の指標である ROIC 経営 2.0 を仲立ちに TSR など株主価値の説明に繋げ、さらにスチュワードシップ・コードとコーポレート・ガバナンスコードの新たな動向にもいち早く対応した。

#### **MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社(初受賞)**

制度上求められる「ディスクロージャー誌」を母体に、保険契約者に理解し易くかつ投資家の情報要求にも応えられる水準で、総合保険業の価値創造ストーリーを簡潔に説明するなかで ERM 経営やグループ ROE 分解を使用し具体的な数値の説明に繋いだ。

第 3 回 WICI ジャパン「統合報告表彰」授賞式は、2015 年 12 月 4 日(金)13:15~14:15 に、国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール(〒106-0032 東京都港区六本木 5-11-16 ☎03-3470-4611)において開催する「WICI シンポジウム 2015」(プログラム等は WICI ホームページ: <http://www.wici-global.com/symposium2015/>) の行事の一環として行います。

WICI ジャパン会長 長 友 英 資  
WICI ジャパン「統合報告審査委員会」委員長 鈴 木 行 生

#### 記

#### 【審査目的】

事業報告の簡潔・明瞭化により事業体のステークホルダーとの双方向コミュニケーションを高め、事業体と社会の持続可能性を向上させようとする<IR>に呼応し、その活動を日本において推進する方策として、「WICI ジャパン統合報告表彰制度」を創設することにした。併せて、「統合報告」の発行体が広くステークホルダーから受けた評価を次年度の「統合報告」の制作に反映できるようにすることを本表彰制度の主たる目的とし、「統合報告」「コーポレート レポート」「サステナビリティ レポート」「CSRレポート」「アニュアル レポート」等の名称の如何を問わず、2014 年度の実績にもとづく年次報告として、2015 年 10 月までに上場会社ないしこれに準ずる会社が発表したものを対象に勝手審査を行った。

## 【審査ポイント】

- 1) IIRCが定める<IR>フレームワークに定められた必須記載事項を反映して、当該発行体の価値創造ストーリーが簡潔明瞭に記されているか否か。
- 2) 過去の事業活動で達成された成果と残された課題が整理され、それと今期の実績との繋がりが明確にされていると共に、それを踏まえた将来の事業展開が、そのリスクと合わせて適確に見通せるようになっているか。
- 3) 営む各事業活動の価値創造ドライバーがKPIとして、経時的ないしピアグループ間で比較できるような形で提供され、KPIと開示する企業データとの繋がりが示されているか。
- 4) 事業活動の長期にわたる持続可能性を支えるコーポレート・ガバナンスが当該発行体に相応しい形で保たれているか。
- 5) 経営執行陣が自社の資本コストを自覚し、株主還元を含めそれを意識した経営に取り組んでいるか。
- 6) 企業の報告・開示は、主たるステークホルダーを意識するとともに、その他のステークホルダーに対しても、適確な開示メディアを選択活用してそれらの情報ニーズに応えているか。

## 【「WICI ジャパン統合報告表彰」審査委員会】

- 委員長 鈴木 行生(日本ベル投資研究所)
- 委員 松島 憲之(三菱UFJモルガン・スタンレー証券)
- 清水 倫典(Gマネジメント アンド リサーチ)
- 川原 稔 (株式会社バリューレイザー)
- 本多 淳 (龍谷大学非常勤講師)
- 富田 秀実(ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド)
- 光定 洋介(産業能率大学教授)
- 橋本 明夫(元バイサイド・アナリスト)
- 長田 清英(東海東京調査センター シニアグローバルストラテジスト)
- 宮永 雅好(株式会社ファルコン・コンサルティング)
- 小西 範幸(青山学院大学教授)
- 與三野 禎倫(神戸大学准教授)
- 内山 哲彦(千葉大学教授)
- 委員会事務局 花堂 靖仁、高井康男、菊池 慶輔

## 【審査手順】

- 1) 委員会事務局が次の手順により予備審査を行った。
  - ① 東京証券取引所市場第一部上場銘柄のうち 2015 年 7 月末の時価総額上位 200 社をリストアップした。
  - ② この 200 社について、上記「審査ポイント」に照らし、名称の如何にかかわらず WICI の「統合報告」に相当する年次報告と判断できる発行体を選別するとともに、時価総額 200 社には含まれていないが「統合報告」に相当する年次報告書を作成していると判断できる発行体 19 社を委員会事務局が選考し、予備審査対象企業とした。
  - ③ 上記②で選別した予備審査対象第一次候補企業について、上記の「審査ポイント」を「統合報告」の一般的な構成に応じた具体的な評価項目に分解し、委員会事務局

が独自に作成した「WICI統合報告優良企業審査シート(以下「審査シート」)により評価を行った。なお、同審査シートは、IIRCの「統合報告フレームワーク」を参照しつつ「WICIフレームワーク」を基本において作成している。

- ④ 「WICI統合報告優良企業審査シート」による評価にもとづき、一定以上の評点を得た発行体から優秀企業賞の本審査候補企業を審査委員に提示し、本審査から除くべき企業ないし本審査に新たに追加すべき企業の有無を照会した。

2) 審査委員が次の手順により本審査を行った。

- ⑤ 審査委員から本審査候補企業についての削除・追加の申し出はなかったため、優秀企業賞の本審査候補企業 21 社を第 2 次審査対象企業として、審査委員が分担して別紙として添付する審査シートによる評価を行い、最終審査候補企業 6 社を選定した。
- ⑤ 第 3 次審査では、最終審査候補企業 6 社について各審査委員員がすべてを審査し、全員の審査評価シートが整ったところで、審査員が集い、審査委員長の司会進行のもと、最終審査会を催した。6 社について相対的に劣後のものを審査対象から除く方式で審査し、最終的に残った 4 社について再度慎重審査した結果、上記の 4 社を第 3 回の「WICI 統合報告優秀企業」として表彰することに決定した。

※第 3 回「WICIジャパン統合報告表彰」授賞式においでの際は、会場受付で取材の旨をお伝えいただき、お名刺を提出いただきますようお願い申し上げます。

**【連絡先】WICI ジャパン事務局**

〒169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学大学院商学研究科 11 号館 1139 号室  
西山 茂 研究室内

担当 花堂 靖仁(電話 090-3912-2729) 瀬川知恵子(電話 090-8728-8863)

社名: 総頁数: 頁 (AR以外に参照したものの、例えばHPのWeb開示全体、Financial Data、CSR報告書等: )

I 基本原則関連		評価ポイント:全体を一読した後の感想として採点してください。	記載の有無	スコア	特記事項(付加点を付けた場合はその理由)
1. 戦略的焦点と将来志向	①会社の戦略が将来の価値創造へと結びつく内容のストーリーで語られているか ②統合的思考により(「サイロ問題」の克服を意識して)「諸資本」をいかに有機的に活用するか、諸資本への影響について記載があったか				
2. コネクティビティ(情報の相互連関)	①事業戦略と外部環境、事業リスク、各資源配分等の記述/データと経営の実体とが結び付けられるか ②1期間に留まらず、過去の一定期間の組織活動の分析が記載されており、将来の戦略展開の成否の予想分析が行えるようになっているか ③関連する財務データ相互、非財務情報相互および両者間の連関性が示されているか ④特に「ロジックツリー」などを使って、価値創造プロセスを財務・非財務データに落とし込んでいるか				
3. マテリアリティ(重要性)	①自社の経営に影響を与える主たるステークホルダーが示されているか ②主たるステークホルダーの関心事項である重要な要因がリスクと機会の両面、及び将来のパフォーマンスに関連付けて説明されているか				
4. 一貫性、信頼性、比較可能性	開示されているデータは過去からの一貫性、信頼性が保たれ比較可能性があるか				
5. 簡潔性・読みやすさ、およびビジュアル	記載されている情報・データの表現が簡潔明瞭となるように、文章および写真・グラフ・チャート・イラストなどデザインが優れ読みやすくとめられているか				
II 内容要素関連		評価ポイント:記載されるべき内容	記載の有無	スコア	特記事項(付加点を付けた場合はその理由)
6. 組織概要と外部環境					
6-1. 事業概要/ビジネスモデル	①事業の概要(事業のセグメント、主な製品・サービス等)がわかりやすく説明されているか ②ビジネスモデル(組織の短中長期にわたり事業活動を通じてインプット類をアウトプット類及び成果に変換するシステム)と価値創造ドライバーが捉えられるか ③ビジネスモデルと戦略・パフォーマンスとの関連性が示されているか				
6-2. 事業環境/競合状況	①企業の経営情勢と事業を左右する経営環境要因に関する説明/分析があるか ②各事業の市場規模/自社のシェアが捉えられるか ③競合に関する説明と競合他社と比較した自社の競争優位性は捉えられるか ④結果として将来の事業環境を見通す分析ができるか				
6-3. 歴史、沿革/企業理念	①創業以来の歴史/沿革-自社の歴史から、いま、学ぶことに留意しているか ②過去の事業/経営におけるトピックス(不祥事等を含む)に参照できるか ③企業理念(創業精神の今日における意義)、ビジョン、ミッション等が捉えられるか ④企業の行動規範(社是・倫理規範・行動原則等)が判るか				
7. 戦略/経営資源					
7-1. 戦略	「戦略」については、全社戦略を中心にしつつ、これと関連付けて事業セグメンテーション別戦略に言及しているときは「特記事項」に記載のこと				
7-1-1. 現在の戦略	①全社レベルの戦略に関する説明(背景/環境認識を含む) ②各事業セグメント毎の戦略に関する詳細な説明 ③戦略遂行に必要なリソース/事業プロセスの課題/財務手法との関連性				
7-1-2. 過去の戦略と評価	①過去の戦略の遂行結果の記述(成功/失敗の原因分析、遂行途上の改善策等) ②事業成果(9-1)、重要な経営指標との関連性をもった記述/評価				
7-1-3. 将来の目標/方向性	①将来(中長期)の目標・計画(2-①との整合性を含む) ②具体的な戦略、取り組みテーマ等が示されているか ③将来戦略に必要なリソースと戦略評価のためのKPIを設定があるか				
7-2. リスクとその対応	①事業遂行上考えられる重要なリスク情報が理解できたか ②リスク発生の可能性を示す情報やその対処・管理方法についての具体的な記述				
7-3. Key Process/Value Driver	①事業の成否評価の鍵となる重要なプロセス(ビジネス要素)の説明と適切な成否判定を行うための事業サイクル期間 ②事業を成功に導く鍵となる経営資源、及び経営指標(KPI)				
7-4. 資本類別(財務/非財務資本)	①各事業で用いている経営資源(6類型別の資本以外でも可)の説明 ②特に自社の競争優位性を支えるリソースが理解できたか ③各リソースを維持/向上させるための施策(6-1②との関連性がわかればベスト) ④自社の事業遂行上必要となるIP(知的財産等)、組織知等の記述 ⑤研究開発に関する状況/将来見通し ⑥自社の競争優位性を支える人的資本の内容と説明				
8. ESG関連					
8-1. 企業統治	①企業統治に対する会社経営陣の基本姿勢の説明 ②経営監視上導入している工夫(諮問委員会等)がされているか ③役員報酬決定の手続きと方法の妥当性および役員別個別開示への取り組み ④経営監視面の課題(コンプライアンス態勢、内部統制の状況など)とその対処策 ⑤過去の不祥事とそれに対して採られた対応についての記載があるか ⑥CGコードへの対応が適切になされていると感じたか				
8-2. 環境対応	①事業が自然や環境に対して及ぼす影響とその対処 ②環境に対して配慮している諸事項と目標(KPI)				
8-3. 社会的責任	①事業が社会に対して及ぼす影響とその対処 ②顧客、取引先に対して配慮している諸事項と目標(KPI) ③自社の従業員等に対して配慮している諸事項と目標(KPI) ④対社会において配慮している諸事項と目標(KPI)				
9. パフォーマンス					
9-1. 過去の事業成果	①過去(長期)の財務実績が十分に且つわかりやすく説明されているか ②重要と思われる財務指標(ROE、ROA、EPS等)が示され、具体的な説明があるか ③事業成果と戦略との整合性の記述等実績評価に関する説明 ④各資本提供者の要求に対する成果(outcome)の記載とその評価 ⑤特に重要な非財務関連データの開示の工夫				
9-2. 過去の資本/財務政策	①過去の資本政策(増資等)に関する全てのデータ ②配当/自己株取得の実績データと合理的な株主還元方針の記載 ③過去の負債・資本構成比率の考え方に係る記載				
9-3. 株主パフォーマンス実績/評価	①過去(上場以来、増資以降、5年、10年)の配当込みのTSR実績(株主リターン) ②相対比較(対市場、対業種、対競合会社)及びリスク(σ)関連の情報 ③経営者としてのTSR実績評価(想定資本コストとの比較があればベスト)				
9-4. 現在の財務状況	①現在の財務状況に関する評価/分析 ②特に資本コストとの関係、格付けとの関係についての記述があるか				
9-5. 将来の財務戦略	①経営上目標とする財務指標とその数値、その理由 ②目標を達成するために取り組む施策 ③中・長期の資本政策(配当性向等)、および負債・資本構成の方針				
III 開示の説得力		評価ポイント:最後の感想として採点してください。	スコア	スコア	コメント(任意)
10. 透明性	会社の経営実態、また事業活動上の課題などについて把握でき、経営陣にとって都合の悪い情報についても開示がなされており、信頼性が高められた				
11. 持続可能性	会社の将来を見通すことができ、その持続可能性が確信できる				
12. リーダーシップ	会社の経営陣のリーダーシップと経営力が感じ取れた				
13. 長期開与へのインセンティブ	会社へ、財務資本をはじめ各種資本を将来にわたり提供することを通し、長期にわたり関与しようとする思いが高められたか				
合計					